

苗場山麓 ジオパーク

Vol.

14

振興協議会だより

〔発行日〕平成27年8月24日
〔発行〕苗場山麓ジオパーク推進室
〔お問い合わせ〕025-765-1600

第5回振興協議会総会を開催いたしました

去る6月26日、第5回振興協議会総会において、平成26年度の活動報告とそれらに伴う会計報告をいたしました。また、平成27年度は、3年後の再審査に向けて「アクションプラン計画」に基づく本格的な活動予定とそれに伴う予算審議を頂き、確たる歩みを認めて頂きました。

特に、資源探査部会から提出された中津川溪谷散策道計画は、①旧草津街道の復元を含めた見玉～見倉までの右岸散策道、②結東のシシ穴付近から前倉までを結ぶ旧林道の復元散策道、③石坂集落の道祖神から前倉のトドを目指す新設の左岸散策道などです。時間は掛かるものの地域への説明と理解を得て、前向きに挑む夢あるジオパークの主要事業です。

さらには、ジオパーク核施設として、栄村では「防災学習拠点施設」整備の具体的検討準備の年です。中津川溪谷においては、魅力ある苗場山麓に触れて頂くための「ビジターセンター的役割を担う核施設」の整備計画案を具体的に津南町で着手する方向性が示されました。

さらには、3月に誕生したジオパークガイドを中心とした「ガイド部会」の設立準備と10月立ち上げを目指して、「資源保全部会」設立準備として、環境庁・森林監督署・漁協組合などとの設立事前協議に着手したことが報告されました。



ガイドのつどい

平成25年度から継続してきた「ガイド養成講座」の成果を確認する目的で平成27年3月に「苗場山麓ジオパークガイド初級検定」を開催し、50人が受験した結果、38人のジオパークガイドが誕生しました。これを受けて、6月22日に＜ガイドのつどい＞を開催しました。冒頭、佐藤室長から「ジオパークガイド講座は、ガイド養成ではありますが、それは生涯学習の場として意味が高く、自分の住んでいる地域の履歴と由緒を学ぶものです。故に、全ての人がガイドになるというのではなく、自分の参加できる範囲で参加頂きたいというものです。」との説明を受け、気軽な意見交換が行われました。

その結果、栄村には観光案内団体は無く、津南町観光協会が組織してきた「ふるさと案内人」という観光案内団体が組織されている現状を共通認識しました。そして、集まったジオパークガイドの中には、ふるさと案内人として活動している方々も含まれているという状況も確認されました。

ジオパーク理念には、大地である「ジオ」と豊かな自然である「エコ」、そして、深い歴史文化である「カルチャー」があることを知り、「ふるさと案内人」も「ジオパークガイド」も融合した新たな運営組織の検討の必要性が確認されました。言い換えるならば、得意不得意あるいは総合ガイド・各論ガイド・地域地点ガイドなど「多様なガイド形態」を探ろうという建設的な意見が出されました。具体的には、運営規約やガイド保険、ガイド料金、ガイド方法など検討項目も整理されました。



只見町エコパークガイドの皆さんが視察で来訪！

皆さん！エコパークをご存知ですか？ジオパークとは異なりますよ。

環境庁が進めているユネスコ正式上級プログラムです。自然環境を保護する目的で認定される公園です。「コアゾーン」と呼ばれる核心地域は、厳しく保護規制が敷かれ、将来に貴重な自然環境を残すエリアです。その普及啓発活動を「バッファゾーン」と呼ばれる緩衝地帯で「エコパークガイド」が展開するものです。その活動は、ジオパークガイドの活動とほとんど違いはありません。

私たちジオパークは地域振興を基盤に、将来的な保護を模索しながら自然環境と歴史文化を体感し、豊かで貴重な地域の潜在的資源を地域住民が自らの判断で、将来に亘り、地域の宝を誇りに思い、共に汗を流して磨き輝かせるプログラムです。目的である「保護」と「地域振興と保全」とのベクトルの方向はやや異なりますが、自然環境を基盤に「人から人へ、価値のバトンリレー」の本質は大きく異なるものではありません。

近隣にある只見町エコパークと苗場山麓ジオパークの連携活動は、人材の交流と育成にとって弾みを付ける要諦になると思われ、これから積極的にガイド交流会を企画したいものです。



日本ジオパークネットワーク全国研修会 in 白滝ジオパーク

7月2・3日、北海道紋別郡遠軽町に所在する白滝ジオパークを会場に「ジオパーク資源の保全」をテーマに研修会が開催され、推進室・佐藤雅一と佐藤信之の二人が参加してきました。今年度の秋季に世界ジオパークがユネスコ正式プログラムに組み込まれる公算が高いことから、本格的な保全活動について議論が展開されました。

特に、ジオパーク認定地内の鉱業活動や在地石材加工販売などの資源商業活動への規制問題が中心でした。議論は端緒にあり、誰が認定したのか、その不動産評価など、文化財保護が経験してきた多難で複雑な問題は俎上に無く、貴重で大切な資源を守りたい一心の純粋な議論でした。しかしながら苗場山麓ジオパークの「潜在的資源も保全・保護しよう！」というスローガンの中で、今後新設される資源保全部会で認定地としての保全活動の指針を議論することになります。



絵解きジオパーク イラスト:鈴木夏海



細長くやや湾曲した岩肌の中心に小さなオレンジが見えることから、それを「ズームイン！」えっ！人が登っている！そうです。ここはロッククライミングの聖地として有名な場所でもあります。

彼らが、好んで登る細長い岩は、どうしてできたのでしょうか？

苗場山麓ジオパークのジオサイト

57 の見どころを随時紹介していきます

堂平遺跡



所在地 津南町堂平

種別 文化

堂平遺跡は、中津川右岸の段丘面（米原Ⅱ面）に位置する縄文時代の遺跡です。

本遺跡からは、およそ5,500年前の縄文時代の集落跡が見つかりました。出土した資料の中の火焰型土器と王冠型土器の2点が、完形率の高さから国の重要文化財に指定され、津南町歴史民俗資料館に展示されています。また、本遺跡から出土した別の火焰型土器は、現在大英博物館に展示されています。

そして、本遺跡では、推定径約50mの環状列石^{かんじょうれつせき}が見つかっており、それらは、清津川など周辺の河川から石を運んで作られたと考えられます。また、出土している石棒は、七ツ釜の柱状節理の石から作られています。

この遺跡は発掘調査後、盛土保存され、現在は水田となっています。出土した遺物は津南町歴史民俗資料館の他、農と縄文の体験実習館なじもん、ニュー・グリーンピア津南にも展示されています。

甘酒村跡



所在地 栄村小赤沢 **種別** 文化

甘酒村は、大赤沢集落と小赤沢集落との間、硫黄川の左岸に位置していました。

江戸時代、鈴木牧之による『秋山記行』には越後秋山郷と記録されていますが、現在は長野県栄村です。当時は2軒の家があったと書かれており、同時に、1人の老婆が「いらくさ」から繊維をとる図が描かれています。この繊維から編み上げられたアングインという布で、用途に合わせて様々なものを作っていました。アングインの起源は古く、縄文時代からあったとされていますが、こういった文献で記録はあるものの、その現物が確認されず、明治の後半日本民俗学界においては「幻のあみ衣」とされていました。長らく幻とされていたアングインは、昭和28年、小林存によって同じ秋山郷の結束集落でその存在が確認されます。

鈴木牧之が訪れた後、甘酒村は天保の飢饉（1833～1839）において住人が餓死し、廃村となったと言います。現在は、記念碑と石造物がならび、付近には当時の草津街道が残り、村が存在したことを今に伝えています。

※地質学の学説は複数あり、現在も研究が続いています。そして、本地域の調査研究がこれからも行われる必要があります。

ジオパーク学術指導委員会発足

苗場山麓ジオパークの潜在的資源の調査研究や保全活動を学術的立場から指導・助言頂く目的で学術指導委員会を組織しました。委員長には、小林達雄國學院大學名誉教授（考古学）、赤羽貞幸信州大学教授（地質学）から副委員長に就任頂きました。委員に卜部厚志新潟大学教授（地質学）、山縣耕太郎上越教育大学教授（地質学）、百原新千葉大学教授（古環境学）、中沢英正（植物学：津南町文化財調査審議委員）から快諾いただきました。

今年度から実施しました学術研究奨励事業助成金の申請書類の選考審査を頂くと共に、今年度の調査研究の方針などに対してご指導を頂きました。



東京へ進出！表参道で「苗場山麓ジオパークの魅力」を熱弁

去る7月20日に原宿にあるネスパス新潟館にて「苗場山麓ジオパークの魅力ー観光的可能性についてー」と題して、トークセッションを開催しました。雪国観光圏ブランドマネジャーのフジノケンさんからコーディネーターをして頂き、女性旅人の目線でトラベルライターの朝比奈千鶴さんから苗場山麓ジオパークの魅力を炙り出し、さらにフジノさんからもインバウンドの視点をジオパークに重ねて頂きました。それら複眼的視点から生まれた質問に佐藤雅一室長が豊富な民俗学的考古学的知見から苗場山麓に隠された知的探検の扉の在処を教える、そんな楽しいトークセッションでした。まだ完成されていないジオパークの観光ビジネスモデルのフレームが見えた瞬間でもありました。



朝比奈さん（左）

それら複眼的視点から生まれた質問に佐藤雅一室長が豊富な民俗学的考古学的知見から苗場山麓に隠された知的探検の扉の在処を教える、そんな楽しいトークセッションでした。まだ完成されていないジオパークの観光ビジネスモデルのフレームが見えた瞬間でもありました。

ガイド研修会

7月26日 津南町文化センターにおいて（株）ピッキオの楠部真也氏を講師にお招きしてジオパーク研修会を実施しました。当日は32名（ジオガイドおよびガイドを目指している人たち）が集まりました。

講演では、「観光と自然資源保護におけるガイドの役割」と題して、ピッキオの活動を含めてお話を頂きました。特に、ガイドの役割としては、「観光ガイド」と「環境教育のガイド」は異なる点を指摘し、前者はおもてなしとしての楽しさを、後者は教育として自然の大切さを伝えることを主眼におく必要があるとされました。

今後、人口減少などから観光産業は30%減となることが指摘され、ガイドがお客様に想像以上の満足度を与えることでリピーターとなること、リピーターの獲得が何よりも重要で、ガイドの役割の1つとされると話されました。

また、現在の日本では、観光客の入れ込み数で評価されるが、今後は、収益で評価されるべきで、価値の高いブランド力を持って、対象とするお客様の検討も必要であるとされました。このほか、目的のものが見ることができなかった場合の返金制度やガイドの養成カリキュラム、研修制度などの体制についてもお話がありました。

質疑応答では、多くの質問があり、予定時間を超過するほどでした。現在の観光業界の実態についても聞くことができた講演会でありました。今後、ピッキオでガイドを受けるといった研修を実施しても良いと考えます。



楠部真也氏

絵解きジオパーク その答えは

ここは中津川渓谷左岸に所在する屋敷集落に聳えた「布岩山」です。この細長い岩は柱状節理と呼ばれる自然凝固現象で生まれた柱状の岩です。熱い溶岩が冷えて固まる時に、順次熱吸収されながら互いが引っ張り合い縮まる現象で生まれます。例えば、グランドにできた泥水が乾燥した結果、連なる六角形のカサブタ状の泥板を見たことがあるでしょう？それは同じ自然現象です。柱状節理の断面も基本的には、六角形（五角形や四角形の場合もある）です。